

【市長あいさつ（要旨）】

新型コロナウイルス感染症が第4波ということで、まだまだ状況が見通せず、今日から緊急事態宣言も延長という中、市としても感染症対策にしっかりと取り組んで参りたい。

先日、小牧市がSDGs未来都市に選定された。これはなかなか取れないということ。これを皮切りに、SDGs含めてしっかりと進めて参りたい。

本日の案件は、令和3年小牧市議会第2回定例会の提出予定議案である。上程議案数は、条例案5件、一般議案1件、専決処分承認案3件、補正予算案1件、諮問2件の合計12件を予定している。

その後、こども未来館市外居住者の使用料徴収について、またワクチン接種の小牧市方式について説明する。

【説明要旨】

【令和3年小牧市議会第2回定例会提出議案について】

【条例案】

《小牧市使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について》

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の改正に伴い、個人番号カードの再交付手数料を廃止するものである。

《小牧市市税条例等の一部を改正する条例の制定について》

地方税法等の改正に伴い、個人市民税では、令和6年度以後の各年度分の個人市民税の均等割及び所得割の非課税の範囲等に係る扶養親族について、年齢16歳未満の者及び控除対象扶養親族に限ることとし、特定一般用医薬品等購入費を支払った場合の医療費控除の特例について、その適用期限を令和9年度分まで延長し、住宅借入金等特別税額控除について、一定の場合に、その適用期限を令和17年度分まで延長するものであり、固定資産税では、一定の雨水貯留浸透施設に係る固定資産税の特例措置について、課税標準をその価格に3分の1を乗じて得た額とするものである。

《小牧市医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について》

児童扶養手当法施行令の改正に伴い、母子・父子家庭医療費の受給資格者について、所要の規定の整備を行うものである。

《小牧市児童館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について》

休日等には15人以上の団体による、こまきこども未来館の遊びひろば等の利用を許可しないこととし、遊びひろば等の使用料を市外居住者が休日等に利用する場合にあっては、1人1回につき400円とし、こまきこども未来館の音楽スタジオ等の主たる利用者が市外居住者である場合の使用料の額はその額に100%相当額を加算した額とするものである。

《小牧市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について》

条例の基準となる省令の改正に伴い、書面に代えて、電磁的記録により行う記録、作成等について定めるものである。

【一般議案】

《高機能消防指令設備改修委託契約の締結について》

尾張中北消防指令センターにおける高機能消防指令設備を改修するため、委託契約を締結しようとするもので、委託契約金額は4億150万円、委託契約の相手方は日本電気株式会社東海支社で、契約の方法は随意契約である。

【専決処分承認案】

《小牧市市税条例の一部を改正する条例の制定について》

昨年度末に地方税法等が改正され、一部の規定が今年の4月1日から施行されることとなったため、小牧市市税条例において、4月1日施行として改正すべき規定を専決処分により条例改正をしたものであり、その専決処分について議会の承認を求めようとするものである。

固定資産税及び都市計画税では、令和3年度の固定資産税の評価替えに伴い、土地に係る令和3年度から令和5年度までの各年度分の固定資産税及び都市計画税の負担に係る調整措置について、平成30年度から令和2年度までと同様の措置を講じ、これに関わらず、令和3年度分の固定資産税及び都市計画税に限り、一定の宅地等及び農地については、前年度分の課税標準額を当該年度分の課税標準額とするものであり、軽自動車税では、軽自動車税の環境性能割の非課税措置等の適用期限について、令和3年12月31日まで延長し、軽自動車税の種別割における軽減税率措置について、

令和3年度及び令和4年度取得分については、取得の翌年度のみ一定のものに限り軽減税率制度を適用するものである。

《令和3年度小牧市一般会計補正予算（第1号）》

4月1日付の令和3年度小牧市一般会計補正予算（第1号）の専決処分について、議会の承認を求めようとするものであり、補正前の額に1億162万9,000円を追加した結果、591億6,462万9,000円となった。

ひとり親世帯生活支援特別給付金支給事業で、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、低所得のひとり親世帯に対し、子育て世帯生活支援特別給付金を支給するものである。

《令和3年度小牧市一般会計補正予算（第2号）》

5月20日付の令和3年度小牧市一般会計補正予算（第2号）の専決処分について、議会の承認を求めようとするものであり、補正前の額に1億819万7,000円を追加した結果、592億7,282万6,000円となった。

子育て世帯生活支援特別給付金支給事業で、さきの議案第56号において、低所得のひとり親世帯に対して先行して支給している子育て世帯生活支援特別給付金について、ひとり親世帯を除くその他の低所得の世帯を対象に支給するものである。

【補正予算案】

《令和3年度小牧市一般会計補正予算（第3号）》

補正前の額に3,218万5,000円を追加し、593億501万1,000円とするものである。

＜歳出＞

まず、集会施設整備事業は池之内川南集会場玄関バリアフリー化工事に係る経費である。次に、ラピオ屋上看板書換え委託料は、こども未来館の市外居住者利用開始に向け、ラピオビル屋上看板にこども未来館をはじめとする多世代交流プラザ等のサインを表示する経費である。次に、保育園運営一般事業の手数料、教育・保育事業、幼稚園運営一般事業は、市内の保育園、幼稚園等において、新型コロナウイルスの感染が確認された際、職員本人の申出により実施するPCR検査等の費用負担について支援しようとするものである。公立園については手数料での対応とし、職員からの一部自己負担を見込んでいる。民間事業者の運営する保育園等については補助金での対応とし、費用の3分の2を補助し、残りの3分の1は事業者

負担としている。また、教育・保育事業には、県の補助金の変更に伴う、とやまこども園トイレ改修工事に係る補助金の増額を計上している。次に、児童館施設管理事業は、夏休みにおける利用者の増加を見据えた混雑回避等への対応として、施設予約システムの導入や券売機の購入等に必要な経費を計上するものである。

【諮問】

《人権擁護委員候補者の推薦について》

諮問第1号の西川菊次郎氏と諮問第2号の山中小幸氏は、いずれも再任である。

【こども未来館市外居住者の使用料徴収について】

こども未来館は、3月6日のオープンから現在まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内在住者に利用を限定しているが、定員の半分以下の厳しい人数制限の中、オープンから約3か月で約4万人という多くの方に御利用いただいている。

今後、市外居住者の利用を開始するに当たり、繁忙期において市民がある程度優先的に利用できるようにするとともに、施設の運営や維持管理に関する受益と負担の公平化の観点から、先ほど説明があった条例改正のとおり、市外に住所を有する満1歳以上を対象に、大人、児童ともに1人400円の使用料を徴収することとするものである。

なお、使用料徴収の対象日は土日、祝日のほか、夏休み、冬休み及び春休みの長期休業日とする。また、市外居住者の利用開始については、新型コロナウイルス感染症の感染状況やワクチンの接種状況などの動向を注視しながら決定していきたいと考えている。

【ワクチン接種の小牧市方式について】

新型コロナウイルスワクチン接種の小牧市方式の3つのポイントについて説明する。

1つ目のポイントは、接種券は年齢が高い順に1から2歳刻みで発送というところである。

本市では、高齢者の中でも年齢順に接種を進めることとし、昨日までに

68歳以上の方、約3万4,500人に接種券を発送した。全国的には65歳以上の高齢者の方全員に一斉に接種券を送付している自治体があり、一度に予約が殺到するなど混乱が生じているケースが多くなっているとの報道もある。そうした混乱を避けるため、接種の準備ができた分だけを年齢の高い方から順番に接種券を送付して、接種券が届いた方は予約を取れるような仕組みとした。

次に、2つ目のポイントは、集団・個別接種とも市が一括で予約を受付けているというところである。

自治体によっては、各医療機関で直接予約を受け付ける方式を採用しているところもあり、医療機関に予約や問合せの電話が殺到するなど、通常の診療に支障を来しているケースもあると聞いている。そうした混乱を避けるため、また医療機関の負担を軽減し、ワクチン接種に専念していただくとともに、1か所で市内の予約状況を把握して、効率的にワクチン接種を進めていくために、集団接種、個別接種ともに市が一括して受付をしている。

3つ目のポイントは、接種券が届いた方は必ず予約ができるということである。

市医師会や各医療機関の協力で、希望する65歳以上の方全員が7月末までに2回の接種を受けられる予約枠を確保している。その結果、毎日継続して予約受付を行い、予約を断らない、締め切らないことができ、接種券が届いた方がスムーズに予約ができる仕組みとしている。

5月18日に予約を再開してから、ネット予約については24時間フル稼働しており、また12回線電話予約を受け付けているが、十分な予約枠を確保して、予約枠に見合った分だけ発送しているため、基本的には接種券が届いた全ての方が予約できる数を確保している。接種券を受け取ってから、その当日あるいは翌日の2日間程度で大体7割ぐらいの方が予約をされ、その後、徐々に増えていくというような状況で受付ができており、ここまで予約率は約7割～8割というところで推移している。

市内の高齢者人口3万8,000人に対し、予約枠も3万8,000人分、用意している。これは、7月末までの接種完了という政府からの強い要請がある中で、市としては3万8,000人全ての方が希望しても接種が完了できる数を、医師会や各医療機関の協力をいただき、何とか確保したという状況である。

そうした中で、名古屋空港ターミナルの愛知県の集団接種枠を4日間で各2,000人、合計で8,000人ということで枠をいただいているが、予約者数が現時点で、前半の6月7日、9日の両日4,000人分に対して930名。6月2日に65歳から67歳の方への接種券の発送をもって、65歳以上の全ての高齢者への接種券の発送が完了するので、この年代の方に予約をいただけることを期待している。

小牧市は年齢の高い方から順に発送し、予約の混雑を緩和するという方式を、3月の方針決定時点から取ってきたため、混乱が非常に少なく順調に推移しているが、その後から県のほうで大規模接種会場が設置されたので、日程がかみ合わなかったということは残念。小牧市方式で年齢順に発送している中で、まだ全ての方に接種券がお手元に届いていない状況なので、こういう状況になっている。

なお、希望された方がほぼ予約が取れている状況で24日の愛知県会場の予約をスタートしているため、名古屋空港会場の予約が埋まっていないということもあると考えられる。

65歳以上の方は6月3日中に接種券が届き、3日のうちには6月7日の予約ができ、また6月9日の予約については十分時間があるので、何とかここで埋まるように期待をしたい。

今、接種券の発送の封筒に名古屋空港会場のPRを貼ったり、小牧市の公式LINE、ホームページ、SNS等を活用したりして、お元気な方は名古屋空港会場を利用していただけると、足の悪い方などに市内の身近な会場の枠が確保できるので、小牧市としては大変助かるという案内をしている。なお、名古屋空港会場には小牧駅とパークアリーナ小牧から無料の送迎バスを約15分間隔でピストン運行している。直接、もちろん車で行っていただいてもよい。

予約枠が仮に2,000人ずつの枠が埋まらなければ、キャンセルのときと同様に、医療従事者や消防などのライフライン、介護・福祉関係、保育士や幼稚園の先生などに優先接種する。これは、子どもたちは特にマスクがつけられずワクチンも打てないということで、子どもの感染リスク低減が目的。大村知事も弾力的な運用ということを言っているので、最後まで高齢者接種に努力をしながら、万一余力が出た際には有効活用していきたい。